

国 労 鹿 児 島

発 責 原村克則
☎ 099 254 0266

第2回総会を開催

労働条件改善・組織拡大に
全組合員が職場から闘うことを確認！

11月10日にユニオンホテルにおいて、第2回国労鹿児島地区本部定期総会を開催しました。

柏木副委員長から「国労の運動が職場に浸透しているのか考え、今後の取組みについて皆で考えて行動を展開できるように本総会で真摯な議論をして頂きたい。」の挨拶で開会した。

議長に、鹿児島乗務センターの松岡組合員を選出。「30年ダイヤ改正は、きりしまワンマン運転・減便、区間短縮などの合理化が実施され、利用者、地域から多くの不満がだされている。JR社員の労働条件改善と公共交通として地域・利用者の利便性の向上に向けた取組みが求められている。総会で議論し方針を確立してほしい。」と挨拶された。



挨拶（内容は2面）。引き続き7名の来賓の皆様から（氏名2面）連帯の挨拶を頂き、最後に九州本部岩元書記長より、今後の闘いと取組みについて提起を頂きました。

議事進行、黒木副委員長から2017年度経過報告、千代森書記長から2018年度方針（案）的場財政小委員長から2017年度決算・2018年度予算（案）が提起され、総括質疑として、6名の組合員が発言した。

2018年度役員

役 職	氏 名
委 員 長	原村 克則
副委員長	柏木 悦郎
	黒木 真司
書 記 長	千代森 満
執行委員	福田 公彦
	西原 孝徳
	丸山 淳一
	川崎 義彦

一人一人が自覚に行動を！

大々的な発言

千代森書記長から「この1年間の取組みを進めるためには、役員任せではなく組合員一人一人が、職場で地域で行動することが重要である。もう1歩前に出るという気持ちで一緒に奮闘しよう。」と総括された。

経過・方針・財政は全体で承認され、最後に原村委員長の「団結ガンバロー」で締め総会を終了した。

総会終了後は交流会を開催し更に団結を深めました。

議長 松岡氏



- ◆ この間公用車含め要求をしてきた。年数はなかったが実現してる。積み重ねの要求が大事。
- ◆ 工務関係管轄区域が大きく、障害時対応で時間がかかる超勤も40〜50時間の人もいる。要員不足である。要求を。
- ◆ 特急ワンマン化車掌案内業務内容がはっきりしていない。業務の明確な範疇を示すよう求めてほしい。
- ◆ 今は案内要員がいるから対応できている事を会社に強く突き付けてほしい。
- ◆ 会社は今以上に無人化をすると言っている。無札が多く問題がある。闘いを進めるべきではないか。

鹿児島 原之園氏



鹿児島 厚地氏



宮崎 下永氏



九州本部岩元書記長



原村委員長挨拶



第2回定期地区本部総会に結集された組合員のみなさん大変ご苦労さまです。

また、お忙しい中激励に駆けつけていただきましたご来賓の皆様、心から御礼申し上げます。

地区本部執行委員会を代表し4点について申し上げたいと思います。

一点目は、組織の強化拡大についてです。

国労、とりわけ地区本部の組織状況は、総会参加者名簿でも明らかのように危機的な状況にあります。昨年も申し上げましたが、年々退職する組合員が増えていく中、機関運営も厳しい状況にあります。

九州的には、今年度は4名の拡大がありました。組織拡大を勝ち取った地区本部、分会、組合員の教訓に学び、職場における信頼関係を構築する中で、職場から組織拡大の取り組みを行う必要があります。知恵を出し合い、大胆に行動を起こす事が求められています。全組合員のより一層の奮闘をお願いします。

二点目は合理化反対、安全安定輸送の取り組みについてであります。

JR九州は、3月のダイヤ改正で過去最大規模の減便を実施

しました。九州新幹線・在来線を合わせて117本を減便、列車キロでは、7%にも上っています。

さらに、昨年の日豊線「特急にちりん」のワンマン運転化に続き「特急きりしま」のワンマン運転化を強行し、新幹線ホーム要員のさらなる削減も行いました。

安全無視の施策には断固反対して闘う必要があります。

また、今回の減便等に対して提出された自治体からの多くの改善要望に対しても、削減した列車の復活は行っていない。地域密着、地域を元気になどと言いつつ、自治体から要望には一切答えようとしない。九州の利益追求のみ姿勢は決して許されません。

今回のダイヤ改正を受けて、地区本部は2月17日に「地方公共交通の維持・存続及び安全を求める報告集会」を開催し、地域住民を無視し、地方交通線を切り捨てようとしている。九州に対して、地域住民や自治体・利用者と幅広く連携し、鉄道の安全・安定の確保と利用者の権利を守るため共闘してゆく事を、2000名を超える参加者と確認しました。

今後も取り組みを強化していく必要があります。

三点目は2019春闘をはじめとする労働条件改善についてであります。

2018春闘ではJR九州は3年連続の有額回答でありましたが、国労の要求とはかけ離れたものであり、到底納得のいくものはありません。55歳からの賃金減額により

現職労働者の生活は非常に厳しい状況であり、60歳からの再雇用15万円の賃金では、退職金や預金の切り崩しでようやく生活する状況で有り、現職と同じ労働条件では無く、賃金に見合った労働条件を強く求めるものです。

2019春闘で、生活出来る大幅な賃上げを目指して、国労は元より、地域、全国の労働者と共に闘いを強化する必要があります。

四点目は、政治的課題と平和と民主主義を守る闘いについてです。

9月20日に行われた自民党総裁選挙は安倍首相が勝利し、10月2日に発足した第4次安倍改造内閣は改憲を視野に入れた布陣と成っています。憲法改悪を許さない為にも、野党共闘などを含め、広範な陣形を構築する必要があります。

政府は、2030年に向け、再生可能エネルギーを「主力電源」としながら、原発を「ベースロード電源」とする「原発依存政策」を推進しています。

川内原発の再稼働を始め、次々と原発を再稼働させています。最近では今月7日、原子力規制委員会は日本原子力発電東海第二原発の、20年間の運転延長を認めました。今後も政府、財界の意のままに規制委が再稼働や運転延長を認めることが予想されます。脱原発社会実現を求める運動を強めていく必要が有ります。

8月8日翁長健志、沖縄県知事が急逝されました。死の直前まで沖縄県民の思いに寄り添い、辺野古への新基地建

設を許さないという立場を貫いて来られました。心からご冥福をお祈りいたします。

9月30日に行われた県知事選挙は、翁長前知事の路線継承を訴えた玉城デニー氏が大きく勝利し、新基地建設反対の民意があらためて示されました。

しかし、8月31日に沖縄県が辺野古の埋め立て承認撤回を通告したにもかかわらず、政府は10月30日にその効力を停止し、工事再開を強行しました。沖縄の民意を踏みにじる暴挙です。本日、西日本から辺野古への土砂搬出に反対する署名の取り組みを行っています。ご協力をお願いいたします。

沖縄だけでなく、鹿児島も基地と無縁ではありません。

10月13、14日の2日間、うみがめの産卵地として有名な種子島の長浜海岸と旧種子島空港で、日本版海兵隊といわれる「水陸機動団」と第1ヘリコブタ1団、米海兵隊の第3海兵師団が参加して侵略された離島を奪還する想定で日米共同訓練が行われました。訓練は民有地を利用したものであり到底容認することは出来ません。

また、新聞報道によれば、防衛省は鹿児島県西之表市の馬毛島を買収し、米空母艦載機の陸上離着陸訓練地として米軍訓練期間に年間2週間程度で、残りの期間は自衛隊海・空の航空機訓練に活用するとしています。

奄美の自衛隊配備の問題では2018年度中に、大熊に中距離地对空ミサイル部隊、節子には地对艦ミサイル部隊を併設。場外離着陸場や射撃場、燃料施設、弾薬庫などを整備する計画

になっており、アマミの黒ウサギの生息地での工事が急ピッチで進んでいます。さらに、鹿屋に米海兵隊のオスプレイが参加するKC130空中給油機を使用した訓練を移転させる計画もあります。奄美、種子島、馬毛島、鹿屋と米軍と自衛隊の基地機能が増大し軍事拠点化されようとしています。軍事基地強化を許さない取り組みの強化も重要です。

来年春には統一自治体選挙が夏には参議院選挙が行われます。

統一自治体選挙での推薦議員の当選はもとより、参議院選挙で勝利し、安倍暴走政治を食い止めるために、全力で戦いましょう。

諸課題の前進に向けて、全組合員が力を合わせて奮闘することを確認し、地区本部執行委員会は運動の先頭に立ち戦うことを申し上げまして、第2回定期総会の開催にあたっての挨拶といたします。

★ご出席頂いた 来賓の皆様★

野呂社民党副代表

鹿児島平和フォーラム
今村副代表

鹿児島ブロック平和フォーラム
湯浅代表

大森市議会議員

吉満労働金庫支店長

交通共済西郷所長

2・16 藤崎代表